

対面・遠隔授業の効果的な共存を考える
～DPを達成するためのよりよい授業形態～

次世代に繋がる ハイフレックス型授業の提案

E班

竹村・西本・吉本・姫野・水谷

授業形態ごとの特徴

メリット, デメリット

	対面	リアルタイム	オンデマンド
雰囲気 意思の疎通	<ul style="list-style-type: none">・ 学生のモチベーションを保ちやすい・ 学生の反応を捉えやすい	<ul style="list-style-type: none">・ 学生のモチベーションを確保することが困難・ 学生の反応が捉えづらい	<ul style="list-style-type: none">・ 視聴のみの授業は飽きやすい
フィードバック オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none">・ 授業中、前後にその場で可能・ 学生の疑問点が聞き出しやすい	<ul style="list-style-type: none">・ 学生・教員の同時発言ができない・ 授業外（前後）の時間は確保しづらい	<ul style="list-style-type: none">・ 文字だけでのやり取りになる・ やり取りに時間を要する
参加コスト	<ul style="list-style-type: none">・ 自宅からの移動時間などが必要・ 開講する場所（教室）が必要	<ul style="list-style-type: none">・ ネット環境があれば参加可能・ 機材・通信費が必要	<ul style="list-style-type: none">・ ネット環境があれば閲覧可能・ オンデマンドであれば時間も選ばない（復習しやすい）・ 機材・通信費が必要
デジタルデータ	<ul style="list-style-type: none">・ 集計などは人が行う	<ul style="list-style-type: none">・ 参加率、視聴率が把握できる	<ul style="list-style-type: none">・ 参加率、視聴率が把握できる
資料の提示、用意	<ul style="list-style-type: none">・ 印刷の手間	<ul style="list-style-type: none">・ データで提供できるため手間が減る・ サイトの提示がしやすい	<ul style="list-style-type: none">・ データで提供できるため手間が減る
テスト形式	<ul style="list-style-type: none">・ 不正行為の対策がしやすい	<ul style="list-style-type: none">・ テスト環境を整えるのが難しい	<ul style="list-style-type: none">・ テスト環境を整えるのが難しい

授業形態ごとの特徴

ハイブリッド授業

ー ブレンド型

オンライン授業と対面授業を組み合わせる授業スタイル

1週目は自宅で動画を視聴、2週目は対面授業で演習などの活用方法がある

ー 分散型

1つのクラスを2グループに分け、一方のグループはオンライン授業を行い、もう一方のグループは対面授業を行うスタイル

ー ハイフレックス型

学生1人ひとりが対面授業かオンライン授業かを自由に選択できるスタイル

理想のハイフレックス型授業



学生



- ・国内海外問わず授業を受けれる
→ 多様化への取り組み
- ・参加したいルームを選択できる
→ **生徒に選択権**がある
本学DPへの取り組みに一致

職員

PCの設定、貸出、
教室貸出、Zoomの設定等

LA

授業サポート

教員



- ・国内海外問わず授業ができる
→ **海外講師による授業**も
- ・気軽に**ゲストスピーカー**を招待できる

★授業の自由度が高く、場所を問わず受講可能 ★対面・オンラインで学びの差がない

新たな授業形態

実施形態	ハイフレックス型 / 1クラス30名程度
目標	授業内容を踏まえた上で、自身の意見を述べることができる
展開	講義＋グループワーク＋個人ワークシートの作成
評価方法	ワークシート＋テスト（論述）

◆目標

関西大学のDP（学位授与の方針）

（知識・技能）

幅広い教養に裏打ちされた専門的知識・技能を修得し、それらを総合的に活用することができる。

（思考力・判断力・表現力等の能力）

グローバルな視野に立って自ら考え、周囲の人と円滑なコミュニケーションをとりつつ、「考動力」を発揮して社会に貢献することができる。

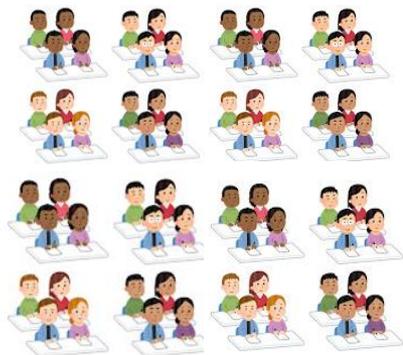
（主体的な態度）

自らの学びに責任を持ち、直面する課題に主体的に取り組むことができる。

～教員の座学・学生同士のディスカッションによって得た深い知識・技能を用いながら、多角的な視点を持って自身の意見を表現することができる～

◆実施形態

【1クラス約30人+LAで実施】

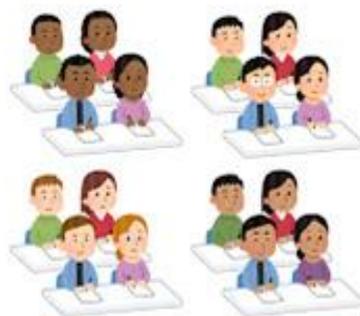


大規模講義

自分の事を先生は見てくれているのか？
何で**評価**しているのか？
が分かりづらい



学生



小規模授業

先生との**コミュニケーション**取る事や**フィードバック**受け取りやすい
(モチベーションUP!)



学生

◆実施形態

【混合型（対面とオンラインの組み合わせ）】

ハイフレックス型

case1

教員（オンライン）＋学生（対面）→教室のスクリーンで配信を視聴後、GD



case2

教員（オンライン）＋学生（オンライン）→zoomで座学とGDに参加



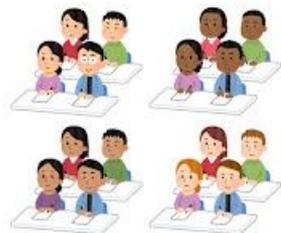
◆実施形態

【混合型（対面とオンラインの組み合わせ）】

ハイブリッド型

case3

教員（対面）＋学生（対面）→対面で座学とGDに参加



case4

教員（対面）＋学生（オンライン）→zoomで座学とGDに参加



◆展開

【必ずグループディスカッション（GD）の時間を作る＋個人コメントの作成時間の確保】

教員が各回で自由に時間設定（例①：座学60分＋GD20分＋個人ワーク10分）

（例②：座学40分＋GD30分＋個人ワーク20分）

→必ず自身の意見や何を学んだか何を考えたのかをGDで他者と共有

→個人コメントは「自身の意見＋GDを通したうえでの自身の意見」※教員の評価材料

【毎回ランダムでグループ分け＋3グループに1人LAを設置】

特にグループは固定しない（多様な意見に触れるため）

（共通の成果物の作成は取り組み度合いに優劣がつく上に評価が難しい）

→LAはそれぞれのGDの進行の補助及び個人の参加具合を観察

観察内容を教員と共有

◆評価方法

○グループディスカッションの参加度

- ・評価基準や観点は教員が定め、LAと事前に共有

○個人コメントシート

- ・自身の考え、GDを通したうえでの自身の考えを記入

○筆記テスト（論述）

- ・教員が出すテーマに対しての自身の意見を表現する内容
（各授業で出てきたワードを用いて答える）